

「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム (GSHIP)」の 取組状況と今後の予定について

1 趣旨・目的

2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指すため、令和3年6月に設立した「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム (GSHIP)」*の令和5年度上期の取組状況と今後の予定について報告する。*製造・流通・消費に関する企業・団体・市町等で構成

2 現状・背景

- GSHIPのワーキンググループ(①プラスチック使用量削減、②流出防止、③清掃回収、④情報発信)において、6月末に第1回ワーキンググループを開催し、9月28日には、会員同士の連携・協働した取組のマッチングを図る「オンラインプロジェクト提案会」を開催予定
- 参画会員数は、設立当初(R3.6)の20社・団体から、117社・団体(R5.9.20時点)に拡大
※参考：R5.4月以降 11団体増加

3 概要

(1) プラスチック使用量削減(リーディングプロジェクト支援補助金)の取組

令和4年度から、生活由来の海洋プラスチック対策に資する先進的な取組を行う参画会員への支援を実施

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容(概略)
R5.8~	<u>ダイセル</u> 、 県内宿泊事業者、近畿日本ツーリスト商事、サンヨーアメニティ、オガワエコノス、広島県立総合技術研究所等	○海洋生分解性プラスチックの宿泊アメニティ等への採用推進、使用済み製品の回収及び回収物のカキ養殖パイプ等への再利用検討等 ・回収スキームの実証(R5.8~) ・昨年度の歯ブラシに加え、他のアメニティ(くし等)へ種類拡大
R5.9~	<u>三菱ケミカル</u> 、 フジシール、宝積飲料、カゴメ、イズミ、丸久、高山商会、全清飲、マルシン、大竹市等	○飲料ペットボトルの3分別回収の促進及びラベルの水平リサイクルに向けた実証事業 ・大竹市内の小学校と連携した体験学習(R5.9~) ・リサイクル可能なラベルを実装したボトルを店頭等で配布、3分別回収、再ラベル化(R5.10~)
R5.10~	<u>東罐興業</u> 、シンギ、 事業所、学校等 【新規】	○紙容器への転換促進、集客施設やイベント等での紙コップ洗浄機を用いた紙容器の水平リサイクルモデル(CUP TO CUP)の構築化に向けた周知・啓蒙 ・イベントや学校等での実証(R5.10~)
R5.10.24~	<u>NISSHA</u> 、NECリフレッシュイン ベーター、飲食店等 【新規】	○中四国初となるデジタル技術を活用した容器のシェアリングサービス「Re&Go」を飲食店等に導入、展開(10/24~サービス開始)
R5.11~	<u>ユニリーバ</u> 、イズミ等	○インセンティブ(ポイント還元)付与による、生活系使用済みプラスチック容器(シャンプー等)の店頭回収及び水平リサイクル ・回収拠点の拡大(県内イズミ17店舗等) ・水平リサイクル品の試作、市場投入試験を実施

※下線部：補助金交付申請者(代表事業者)

(2) 流出防止の取組

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R5. 6～	広島大学、 広島市、保健環境センター、調査会社	○広島大学との微細マイクロプラスチックに係る共同研究（8月末までにクリーンルーム、分析機器を設置し、分析方法の研究に着手） ○マイクロプラスチック実態調査（10月実施予定）
R5. 10～	瀬戸内オーシャンズX、 調査会社、メディア、 運送事業者 等	○道路でのごみの散乱状況やポイ捨ての実態把握、 ポイ捨て防止に向けた情報発信、啓発
R5. 10～	環境省、エフピコ、 フレスタ、トーマツ	【環境省補助事業】 ○スーパーへのペットボトル自動回収機導入による、店舗スタッフの負担軽減や店頭回収の拡大・効率化に係る最適方法の検討、効果検証
R5. 11～	施設管理者、全清飲、 調査会社 等	○ナッジ理論を活用したごみ箱設置による、周辺の散乱抑制・ポイ捨て防止、分別促進に係る効果検証

(3) 清掃・回収

実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R5. 7～	全参画会員、海援隊、 公衛協 等	○参画会員と地域の清掃団体・市町等の清掃活動とのマッチング
R5. 10. 7	全参画会員	○GSHIP参画会員との連携による海岸清掃活動（今年度は江田島・三高港周辺）の実施
R5. 10～	フィッシュフレンズ、 瀬戸内オーシャンズX	○釣り人をターゲットとした海ごみ回収促進、ITを活用したホットスポットの把握・分析、ホットスポットでの清掃活動

(4) 情報発信等の取組

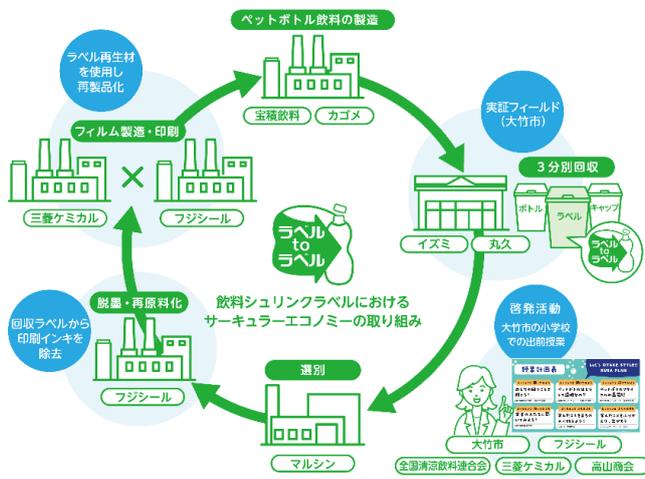
実施時期	連携企業・団体等	主な取組内容（概略）
R5. 4. 18～	サッポロビール、 中国放送、瀬戸内オー シャンズX	○瀬戸内海の海洋ごみ削減に向けた機運醸成及び意識啓発を目的とする、サッポロ生ビール黒ラベル「瀬戸内海環境保全応援缶」の展開
R5. 5	全参画会員	○G7広島サミット国際メディアセンター内「広島県情報センター」でのGSHIPの取組紹介、試飲試食ブースへの環境配慮型容器やカトラリー等の提供・紹介
R5. 8～	広島テレビ、フウド、 タメントイ、 参画会員 等	【環境省「令和5年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」採択事業】 ○江田島をフィールドとした海岸清掃やデジタル技術を活用した海流シミュレーション分析、海洋ごみ回収ボックスのデザインコンテスト等の実施、一連の取組を番組として放送
R5. 10. 9 ～2月	そごう広島店、 エリアマネジメント団 体、中国放送 等	【環境省「令和5年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」採択事業】 ○基町・紙屋町エリアを拠点に、スポーツを切り口とした清掃イベントや資源循環に係る取組、GSHIP会員の取組等を紹介
R5. 10～	全参画会員、大学、 高校 等	○G7広島サミット的首脳コミュニケ（声明）にも盛り込まれた、海洋プラごみ削減やカーボンニュートラルの実現に向けて、GSHIP会員や大学等と連携した若者主体のオープンイノベーション型事業の実施（商工連携）

4 今後の対応

- 令和4年度に成果の得られた取組の社会実装化に向けて、引き続き、積極的なフォローアップを行うとともに、今年度の取組について、国や企業、市町等と連携しながら、円滑に事業推進を図り、取組の効果を検証した上で、成果や課題等についてプラットフォーム内で共有する。
- 引き続き、ワーキング会議において、新たな事業の掘り起こしや参画会員のマッチングを進めるとともに、効果的な情報発信を行って県民への意識醸成につなげていくことで、海洋プラスチックごみ削減に向けた取組を推進する。

5 その他（取組の一例）

■飲料ペットボトルの3分別回収の促進及びラベルの水平リサイクルに向けた実証事業



実施イメージ図

■デジタル技術を活用した容器のシェアリングサービス「Re&Go」



利用イメージ

■生活系使用済みプラスチック容器（シャンプー等）の店頭回収



回収ボックスのデザイン

■サッポロ生ビール黒ラベル「瀬戸内海環境保全応援缶」



海ごみ啓発デザイン缶・ラベル サッポロビール社長による
知事表敬

■G7広島サミット国際メディアセンター内「広島県情報センター」でのGSHIPの取組紹介



会場の様子

試飲・試食ブースへの
環境配慮型素材容器等の提供